

日本をキリストへ 協力

20

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3296-1001

忠実に、神の栄光を

伝道団体連絡協議会副会長 ケネス・マクビーティ

新聞やテレビは、道に迷った現代のニュースを毎日届けています。そして私たちは、ほんの何年前には思いもしなかったようなスケールの犯罪、戦争、道徳的墮落を耳にしています。現代は、神から遠く迷い出ています。

ノアの時代と同じように、現代でもこのように言うことが出来ます。「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。」

(創世記六・五)

そこで、一歩下がって、神の目を通してこの時代を見ると、私たちは何をすべきでしょうか。戦争や中絶の悪に對して声を上げることでしょうか。行事の方針を変える政治的な力を求めることでしょうか。

私たちは、福音伝道者として、最も重要な召しを受けています。それは、神の審判から救われた人々を見るための召しです。私たちは、人々に「唯一の安全な場所であり、審判の時のために、神が備えてくださったイエス・キリストのもとに来るように」と叫ばなければなりません。人々に呼びかけ続けたノアのように、忍耐深く忠実に、信仰によってイエス・キリストのもとに来るように、呼びかけ続けなければなりません。恵みのドアはまだ開かれています。

もしこの時代が、たとえ少しでも、その方向を変えてい

たとすれば、それは巧みな政治的行動によるものではなく、神の提供する恵みを受け入れた人々の生活の変化によるものです。

二百七十年前、イギリスで非常に激しい迫害を受けた伝道者、リチャード・バクスターはこう言いました。「神は天使を遣わされない。神は、この世の人々に涙とともに神のメッセージを伝えるために任命した、普通の人を遣わされます。」私たちが、この悪の時代に対する神の声として、神の代わり立たされているとの召しを、もう一度新たにする必要がありません。

使徒ペテロは、滅びの日について説教した時に、私たちも自らに問わなければならない、きわめて重要な質問をしました。「このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとなれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないのでしょうか。」(Ⅱペテロ三・一二)

これは単に説教したり、熱心に討論したりするだけではありません。まもなく来る滅びと主の再臨の日のことを考えれば、私たちはこの世に対してどのような証しをたてていかなければならないでしょうか。同じような状況にあったノアのように、本当に忠実に、堅く立って、神の栄光を現すお互いであらせていただきますように。

キリスト者学生会

〈全国事務所〉〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC内

☎03-3294-6916

キリスト者学生会(KGK)は、大学の中で学生たちが、学友たちにキリストを伝えていくようになることを目指しています。そのためにクリスチャン学生が、キリストとの個人的交わりを深め、そのお方をまだ知らない人に知ってもらうように努めます。聖書を学び、あらゆることを聖書から考え、祈る学生が育つことを願っています。学生たちは、他のクリスチャン学生から刺激を受け成長するので、学内でグループをつくり、学内伝道のためにともに祈り、聖書を学ぶようにしています。

大学内での活動を励ますため、地区の交わりをもちます。学内に一、二名のクリスチャンという大学でも、その交わりに励まされて活動が続けられています。日本全体は八地区にわかれ、その中でまた県単位に分かれた交わりがもたれています。また学生の成長のために、さまざまな訓練会をもちます。学生時代は人生の方向を決める大切な時なので、進路の選択、結婚などの学びももたれています。



ビジョンとしては、まだ学内グループのない大学がたくさんあるので、そこで活動ができるようになること。日本の大学生伝道なので、まずは日本の宣教に重荷をもつ卒業生が起こされること。また世界の各地に出て行き福音に仕える人が多く起こされること。大学世界、知的な世界でキリストの証しをたてること。やがて国家にインパクトを与えうるクリスチャンが起こされることなどです。

教会インフォメーション・サービス

〈事務所〉〒352 埼玉県新座市新堀2-16-20 松井ビル

☎0424-94-2219
FAX0424-93-4470

一九六九年、JEMAの機関紙「ジャパン・ハーベスト」特集号で、色刷地図の付録とともに載せた日本の教会分布一覧表は、在日宣教師に大きな反響を与えました。その後一九七八年にJEMAとJEAから選ばれた数名による自給独立の運営委員会が形成され、翌年から教会インフォメーション・サービス(CIS)の名の下に働きが始まりました。

最初の仕事は、「ジャパン・ハーベスト」一九八〇年特集号掲載の一覧表と付録地図を作成しました。一九八二年の第二回日本伝道会議には、公式資料として『戦後日本の教会発展調査』を出版し、同じ年にオフィス・コンピュータを導入しました。一九八九年、お茶の水から新座市への移転にともない、データの活用が自由なパソコンへ変換しました。一九九一年には最近十年間の変化が一覧できる『日本の教会一九九〇年』を色刷地図つきで自主出版し、各方面で好評を得ていますが、これもパソコンなればこそその成果でした。



CISの目標は、より詳細・正確な資料を絶えず収集すること、そのデータを宣教のために最大に活用することの二つですが、そのために適切な人材と必要な経済が備えられることが課題です。支援会員制度をとっていますが、宣教師団体の積極的な姿勢に比較して日本人教会側の財的協力は一向に進んでいません。今年には抜本的な組織の改変をしようとして心組んでおり、日本の教会や信徒がたのご支援を心から期待しています。

総動員伝道

〈事務所〉〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC内

☎ FAX 03-3291-5053

すべての人に福音を伝えよう。
すべてのクリスチャンが良い証人になろう。
すべての教会が成長しよう。

これら三つの目標を掲げ、四国四県を皮きりに実施を見たのが一九七〇年でした。以来、全日本にその働きを展開し、現在は、秋田県と山梨県で実施されています。

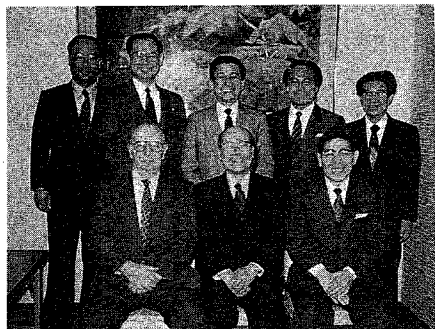
その間、今は別の伝道団体に成長している幾つかの働きを日本に紹介したのも、総動員伝道でした。

教会が相互に手を取り合って、各種伝道団体と働きを推進していく基盤を作ったのも、総動員伝道だったと言えるのではないかと思っています。

「伝道のために信徒を整え、祈り、伝道を実践していく。そして、教会生活を充実させる。さらに教会を建て上げていく。」

このことが全日本で展開されていくならば、異教的な土台がどんなに堅くても、主がみこころとする救霊の業が進展していくのではないかと信じています。

諸団体と協力して教会をお手伝い出来ると思いますので、働きを進めたい団体がありましたらご一報下さい。



高校生聖書伝道協会

〈事務所〉〒150 東京都渋谷区渋谷2-22-16

☎ 03-3409-5072

子供から大人への過渡期にいる高校生は、肉体的、精神的に急速に成長します。もう子供ではないと言う自覚が生じ、大人の干渉を嫌い何でも自分でやっていたいこうと強く願うようになる反面、情緒は不安定で、その上知識や経験の不十分さや能力的限界に、動揺しやすい状態にあります。

不安や悩みが大きいだけにより確かなもの、真実なもの、人生の目的や意義をしっかりと自分のものにしたいと願うのです。より確かなものを求めるために「高校生が聖書を開き、教会の門をくぐっています。」残念ながら現実とはそれと正反対でキリスト教に無関心になっていきます。厳しいまでのこの現実の責任は誰にあるのでしょうか。誰かが何かを始めることが求められています。イエス・キリストの福音を必要としている高校生に、誰が伝えたいのでしょうか。高校生は少ないなどの言い訳を考

えているより、高校内で効果的にイエス・キリストを証しできるのは、クリスチャン高校生であることに目をとめたい。高校生伝道協会(Hi-B・A)は「高校生による高校生伝道」をモットーに活動しています。高校生なら誰でも自由に参加できます。

超教派伝道団体であるHi-B・Aの目的とするところは、日本の高校生をイエス・キリストの救いに導き、さらに彼らを訓練してイエス・キリストの証人とならせることを通して教会に仕え、世界宣教の推進に寄与し、それに神の栄光をあらわすことです。



活動の報告とお知らせ

今年のフェスティバルは 岡山で開催！

例年OCCで行われていました伝道団体フェスティバルは、皆様のご要望にしたがって、今年は地方で開催することになりました。検討の結果、岡山県で新装なった岡南教会において、岡山県宣教セミナーが開催されることがわかりましたので、それとジョイントさせていただくことになりました。そこで地方の教会とクリスチャンに伝道団体の存在と働きを紹介したいと願っています。

◎名称／岡山県宣教の集いセミナー、伝道団体フェスティバル イン 岡山

◎日時／五月二十七日(水)

◎場所／日本イエス・キリスト教団 岡南教会

◎講師／毛戸麗子先生

* 展示・掲示・即売も実施されます。

岡山県宣教の集いの吉岡実行委員長から、「地元として受け入れ準備に入っています。日頃なかなか接することの少ない地方の教会・信徒にとつて大変よい時になることと期待しております」とお言葉をいただいています。

■第8回伝道協研修会のご案内

忙しさをちょっと離れて、祈り、研修し、交わりのときをもつ恒例の企画です。今回は、以下のように計画いたしました。

* 日時／一九九二年九月一七～一九日

* 会場／恵みシャレー軽井沢

* 講師／山口 昇先生

* 会費／一万六千円

ぜひスタッフの方々をお送りください。きっと喜ばれることと思います。

■新年情報交換会開かれる

毎年恒例となった新年情報交換会は、今年も二月四日午後、OCC会議室にて二十八団体の出席で開かれました。一部礼拝では、本田会長が「コリント九・一六～二三から『福音の宣教』と題し「伝道団体に属する者たちへの信任を信じ、救われた喜びをもって、福音宣教に奉仕しよう」と、みことばのとりつぎをされました。

この後、情報交換会として出席各団体から活動

報告、計画発表、祈りの課題などのアピールがされました。紙面の制約上個々の団体の報告等はできませんが、全体的な印象をお知らせして、そのかわりとさせていただきます。

先ず、世界情勢の変化にともなう教界への影響。主に海外宣教に重荷を持つ諸団体からのアピールですが、旧東側の急速な自由化は、またとない伝道の好機であるということ。それから、バブル崩壊による不況が献金団体にとっては特に深刻な影響を及ぼしつつあるということ。新・新宗教がオカルトに攻撃される若い魂への対応の急務が青少年伝道の諸団体からはアピールされた。メディア関連の団体からは、新しい技術の開発が伝道の世界にも応用できるといった声もきかれました。

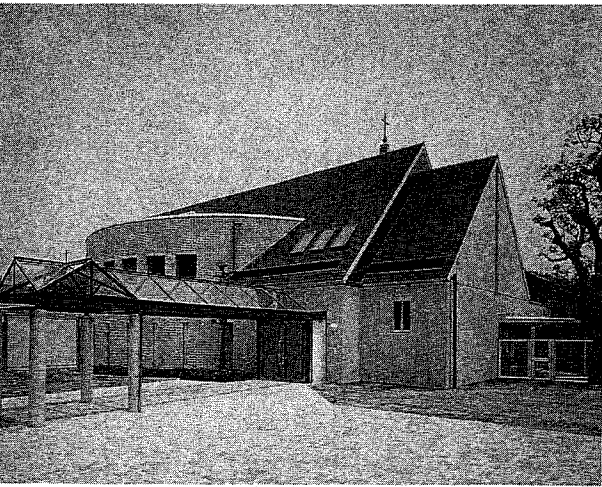
総じて言えることは、私たち伝道団体はこの世に調子を合わせる者ではないが、世にあって活ける聖霊によって活動する者たちであることを改めて確認した思いです。

最後に懇談の時を持ちました。常任役員会の原案による九二年度の活動計画について活発な意見交換がなされました。特筆すべきこととして、伝道協フェスティバルを初めて試みとして、地域教会との協力のもとに地方で開催することです。具体的には本年五月に、岡山県宣教の集いセミナーとの協力企画という形になります。

発行日 一九九二年五月二十日

発行者 本田 弘 慈

編集者 鈴木 繁



会場の岡南教会